

○令和3年度 教育事業

「安全管理研修（登山研修）」(R3.7. 3 (土)～4 (日)) 1泊2日) 一部オンライン実施

令和3年度 北海道青少年教育施設協議会職員研修会
安全管理研修（登山）開催要項

- 趣旨 青少年の健全育成に貢献する青少年教育施設職員としての資質向上を図るとともに、登山を中心とした野外活動に関する基本的な知識・技能を学び、施設や地域の実態に合った野外活動について考える契機とする。
- 主催 北海道青少年教育施設協議会・独立行政法人国立青少年教育振興機構国立大雪青少年交流の家
- 協力 北海道山岳連盟・美瑛山岳会
- 期日 令和3年7月3日(土)～4日(日) 1泊2日
※1日目のみ、2日目のみの参加又は、オンライン(1日目のみ)での参加も受け付けます。
- 会場 国立大雪青少年交流の家
- 対象 北海道青少年教育施設協議会加盟施設の職員、社会教育関係施設職員、その他関係職員等
- 参加経費 現地参加の場合のみ、以下の料金を徴収いたします。

参加形態	金額	内 訳
1泊2日	2,180円	夕食770円、朝食440円、昼食代450円、シーツ代300円、保険代等220円
7月3日(土)のみ	770円	夕食代770円 ※オンライン参加は、無料となります。
7月4日(日)のみ	670円	昼食代(おにぎり弁当) 450円、保険代等220円

※保険内容：死亡・後遺障害 3,000,000円、入院日額 2,800円、通院日額 1,700円、賠償責任 10,000,000円、携行品不担保

8 日程	13:00	13:30	14:00	15:00	15:15	17:30	18:30	20:00	
7/3 (土)		受付	①説明 「野外活動の教育的意義」	②講義Ⅰ 「登山の魅力」	休憩	③講義・演習 「登山時の安全管理」	夕食	④講義Ⅱ 「リーダーの役割」	入浴 ※夜寝
7/4 (日)	7:10	8:00	⑤演習「集団登山の実際」 (十勝岳望岳台～スリバリ火口) ※少雨決行 ※登山中止の場合：救急法演習	14:30	15:30	ふりか えり 閉会式	解散 ※解散後、温泉入浴が可能です		

9 研修内容

①説明 「野外活動の魅力」	野外活動の教育的意義について学ぶ。 【国立大雪青少年の家 職員】
②講義Ⅰ 「登山の魅力」	野外活動の一つとして、教育的意義を踏まえた登山の楽しさについて学ぶ。 【北海道山岳連盟 齋藤邦明 氏】
③講義・演習 「登山時の安全管理」	道具の使い方や体調の変化、天候などについて野外活動を安全に実施するための知識を身に付け、安全管理のための指導について理解を深める。 「フィールドを知る(十勝岳登山について)」 【美瑛山岳会 内藤 美佐雄 氏】 「登山の事前準備について」 【北海道山岳連盟 齋藤 邦明 氏】
④講義Ⅱ 「リーダーの役割」	登山におけるリーダーの役割と判断について学ぶ。 【北海道山岳連盟 齋藤 邦明 氏】
⑤演習 「集団登山の実際」 (十勝岳望岳台～スリバリ火口)	実際の登山を通して、野外活動の安全管理におけるリーダーとして必要な技能について理解を深める。また、登山を含めた野外活動を各施設での野外活動にどのように生かせるか考える。 【美瑛山岳会 内藤 美佐雄 氏/北海道山岳連盟 齋藤 邦明 氏/国立大雪青少年交流の家の職員】

◆プログラム

【1日目】(一日目のみオンラインを併用)

- ① 野外活動の教育的意義 (30分)
講師：藤井 玄氏 (大雪青少年交流の家の所長)
子どもの成長において、実際に体験することの重要性を考えた。
- ② 登山の魅力 (60分)
講師：齋藤邦明 氏 (北海道山岳連盟、遭難対策委員会副会長)
登山の際の魅力について考え、その中から自分にとっての活動の目的を考えながら登山をする重要性を考えた。
- ③ 登山時の安全管理
「フィールドを知る」(70分)
講師：内藤美佐雄 氏 (美瑛山岳会理事長)
「山の事前準備について」(60分)
講師：齋藤邦明 (北海道山岳連盟、遭難対策委員会副会長)
登山は魅力がある反面、大きな危険も伴う。その危険を避けるためには、自分たちの活動する山についてよく知ることが重要であり、ケガをなさないための準備が重要ということを学んだ。また、実際の地図やコンパス、地図アプリを活用しながら安全な登山を実施するための方法を考えた。
- ④ リーダーの役割(90分)
講師：齋藤邦明 (北海道山岳連盟、遭難対策委員会副会長)
登山活動におけるリーダーの役割を、実際の事故事例を通して学びを深めた。

◆目的

青少年の健全育成に貢献する青少年教育施設職員としての資質向上を図るとともに、登山を中心とした野外活動に関する基本的な知識・技能を学び、施設地域の実態に合った野外活動について考える契機とする。

◆参加実績

参加名 13名 (現地9人、オンライン4人)
大雪青少年交流の家 5人
ネイパル砂川 2人
日高青少年自然の家 1人
函館市青少年研修センター 1人
ネイパル森 1人 (オンライン)
紋別生涯学習センター 1人(オンライン)
札幌青少年山の家 2人(オンライン)

※北海道青少年教育施設協議会と連携して実施。



【2日目】

⑤演習 「集団登山の実際」望岳台～十勝岳スリバチ火口

講師：齋藤邦明（北海道山岳連盟、遭難対策委員会副会長）

内藤美佐雄（美瑛山岳会理事長）

実際の登山を通して、体験する楽しさやケガなどのリスクのある場所の確認を行った。自分の体力のことを考えたり、登りよりも下りの方がけがのリスクが上がったりすることなど、安全管理をする上で必要な知識を学んだ。



◆事業運営・企画のポイント

- 安全に登山活動ができる体制の整備をすること。
- 施設職員に向けた研修であることを踏まえ、他の施設職員と交流の場を設けること。

◆参加者の声

- 登山は大変だったが、登った後、下った後は達成感があった。
これからも自然体験のすばらしさを伝えていきたい。
- 施設職員との情報交流ができない状況下で、対面でお話ができる貴重な機会となった。
- 適宜、注意点について説明があったため、学びながら登山ができた。
- 事前踏査や専門家からの調査資料が非常に重要であることを学んだ。
- オンラインでの参加者とも交流をするようなプログラムになっていると良い。



◆事業の成果と課題

- ① 現地参加者が登山の魅力を感じる機会となった。また、直接体験を通して、山の上の気温変化やけがをしやすい場所などを体験しながら安全に登山を終えることができた。
- ② 現地参加者とオンライン参加者が同じように参加できるように準備する必要がある。以下のような改善策が考えられる。
 - ・演習をする際には、オンライン参加者にも解答がわかるように事前に解答付きの資料を送付する。
 - ・講義内容を現地参加と同じように参加ができるように、質問や声掛けのコミュニケーションをとりながら行う。
 - ・オンラインの参加者にも伝わるように登山の際の映像をまとめた広報を行う。
- ③ 個別の山に限定した内容ではなく、登山活動に共通する安全管理について伝える幅広い講義内容にする。

